



河野 月江
(日本共産党議員団)



再開後の学校で子どもと教員を支える施策を

児童生徒への心のケアや、学びを保障する手厚く柔軟な教育と指導が必要だが、小学校全学年に学習支援員を配置できないか伺う。

県の通知による「新型コロナウイルス対策による補習等支援事業に係る学習支援員を各小中学校に1人配置」はほぼ完了しているが、市として全学年への支援員配置は難しい。今後も地域学校協働本部など地域の皆さまのご協力をいただきながら、学校の支援に努めていく。



生活困窮者に寄り添った生活保護行政を

コロナ禍のもと、就労や保有資産等に関する保護受給要件が国により緩和されているが、相談者への対応時に徹底されているか伺う。

国や県からの通知等は、内容を確実に把握の上、実務に取り組んでいる。通知の内容については、三島市社会福祉協議会および三島市生活支援センターと情報を共有し、連携して生活に困窮している方への支援に取り組んでいる。



岡田 美喜子
(新未来21)



高齢者の新しい生活様式における熱中症対策

コロナ禍における高齢者のフレイル悪化が心配される。今夏は感染予防をしながら熱中症対策が求められるが、取り組みを伺う。

新しい生活様式における熱中症予防行動のポイントについて地域の居場所等に周知するとともに、「シニア版コロナに勝とうポイントカード」を65歳以上の方全員に配布する際にも、熱中症予防を呼びかけていく。また、地域の医師を講師に迎え講演会も実施する。

バリアフリーとユニバーサルデザインの推進

安全で快適な社会生活を送れるよう、市民文化館玄関前の階段に、手すりの増設や障がい者のための点字誘導案内を設置できないか。

市民文化館玄関前の階段は、幅が広く延長が長い階段のため、施設利用者に配慮し、今回の大規模改修工事で階段の両端部床面から65cmと85cmの2種類の高さの手すりを設置する。また手すりには、視覚障がい者に配慮した点字の誘導案内を併せて設置する。



沈 久美
(新国会)



休校中に使用されなかった給食用食材の対応

コロナ休校中の給食停止は一人当たり約40食に及んだが、使用予定であった食材等はどのように扱われたのか。

3月はおおむねキャンセルができ、保存が可能な調味料等は給食再開後に使用している。4、5月は事前に発注を控えるなど対策を講じたため、食材の無駄は発生しなかった。なお、該当する事業者には国の補助金を活用し、支援する手続を行っている。



再休校時の給食や代替食提供に関する見解は

給食停止中も子どもの食や家計負担は考慮されるべきと考える。他市町では弁当配布や持ち帰り給食の事例があった。再休校時の対応を伺う。

学校における弁当の配布などは衛生面や人員の課題から、現在対応を考へてはいない。また、給食に近い食事などの提供も感染症対策を考慮すると難しい。再休校時には状況に応じて登校の方法を工夫しながら、できる限り給食提供に努めていきたいと考えている。

他の質問事項

学校給食公会計の利点と公会計化への進捗は



野村 諒子
(フォーラム三島)



新型コロナウイルス感染症防止対策の取り組み

今後も感染者が出てくる可能性があることから、医師会等と連携し検査体制を整えるなど、三島市としての取り組みについて伺う。

感染拡大を抑えながら社会経済活動を継続していくことが課題である。新しい生活様式の普及啓発に一層努め、PCR検査については、三島市医師会のご協力のもと、県や保健所と協議を行い、地域外来・検査センターの設置を検討しているところである。

新しい働き方をまちづくりを生かすために

テレワークなど勤務形態が変わり、地方都市の魅力が再認識される中、三島市が選ばれる取り組みができるか。

本市に住む魅力について一層のPRに努め、オンライン移住相談やテレワークの推進、サテライトオフィスの整備、優れた子育て支援策の情報発信の強化、行政サービスのオンライン化を進め、若い世代に移住先として選んでもらえるよう取り組んでいく。



古長谷 稔
(新国会)



コロナ対策と防災行動との整合性

コロナ感染拡大防止を踏まえた水害時・地震時の避難所開設について、教室等への垂直避難の考えも含め、当市の今後の方針を伺う。

風水害時に避難者数が増加した場合には「密」を避けるため、速やかに校舎を開放して垂直避難を行う。地震時の避難については長期化が予想され、校舎の使用は授業再開に支障が出るため、学校側と相談した上で、使用期間や範囲などを決定する。



下水道広域化、可能性調査の結果を受けて

経済面、技術面、持続可能性等について5つの案で可能性を調査した結果、事業費や三島市の負担見込額等、わかったことは何か。

今回の調査結果では、将来、長伏浄化センターを建て替える案が最も安価となったが、今後、さらに、超長期の汚水量および処理単価推移予測や市の下水道事業会計への影響、施設の耐震化などを踏まえた詳細な調査を進め、方針を確定していきたい。



甲斐 幸博
(緑水会)



PCR検査センターの設置を

第2波、第3波を考え、疑いのある方がすぐに検査できるよう、「PCR検査センター」の設置が必要と考えるがどうか。

予想される感染拡大に備えて、県・東部保健所・三島市医師会・市による意見交換や協議を行った。協議を受け、三島市医師会から具体的な提案をいただき、市民の皆さまの安心につながるよう、市内に検査センターを設置することについて、検討・協議を進めている。

子どもの学習保障について

コロナの影響により、子どもたちは想像以上に心の負担やストレスを感じていると考えられるが、心のケアなどの対策を伺う。

学級担任やスクールカウンセラーとの面談や養護教諭等を中心としたきめ細かな健康観察や健康相談を実施している。今後も、児童生徒のストレス等の把握に努め、保護者や関係機関等と連携の上、心身の健康に適切に対応できるよう、各校を支援していく。

